



さい帯血バンク NOW

第31号

2006年9月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：鎌田薫(会長)

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417

<http://www.j-cord.gr.jp/>

今年の全国大会は10月に福岡で カンガルーケア報告も

日本さい帯血バンクネットワークは、今年で7年目を迎え、5月には非血縁者間の移植症例数が累計で3000例を超えました。今年はいさい帯血バンク事業の年次報告会を兼ねた全国大会を九州・福岡で10月22日(日)に開催することになりました。
=2面にも関連記事

日本さい帯血バンクネットワークでは、今年の年次報告会を兼ねて「2006年福岡発 さい帯血バンク推進全国大会」を10月22日午後、福岡ガーデンパレスで開催します。

この全国大会では、主催者と来賓の挨拶に続いて、これまでのさい帯血バンク事業の事業報告が事業運営委員会の神前昌敏副委員長(大阪府北大阪赤十字血液センター所長)によって行われます。この1年間でさい帯血バンク

が取り組んできた様々な事業の詳細な報告と、さい帯血移植の最新の成績が発表されることになっています。

さらに、さい帯血採取の現場から「よりよいさい帯血採取のために——カンガルーケアのすすめ」と題して、中林正雄副会長(愛育病院院長)による報告があります。現在、採取現場に最も求められていることは、いかに多くの有核細胞数を有するさい帯血を採取できるかです。細胞数の多いさい帯血は移植を希望する体重の重い成人患者には福音となるからです。このため、採取にはカンガルーケアが奨励されるようになっています。

カンガルーケアとは、出産直後に赤ちゃんを母親の胸の上に抱き上げるス

キンシップです。有袋類のカンガルーのように赤ちゃんと母親が接しているところからつけられた名称です。このカンガルーケアにより、実はさい帯血がたくさん採れることがわかってきました。今回の報告では、実際の採取の様子を映像(DVD)に収録したものが紹介されることになっています。

続いて、今年もネットワークを構成するさい帯血バンクのうち、3つのさい帯血バンクから独自の取り組みをしている様子などの紹介があります。今年の3バンクからのアピールは次の通りです。

▽福岡県赤十字血液センター臍帯血バンク＝「福岡県赤十字血液センター臍帯血バンクの現状」

▽中国四国臍帯血バンク＝「さい帯血移植を受ける患者さまのために」

▽東海大学さい帯血バンク＝「東海大学さい帯血バンク・10年のあゆみ」

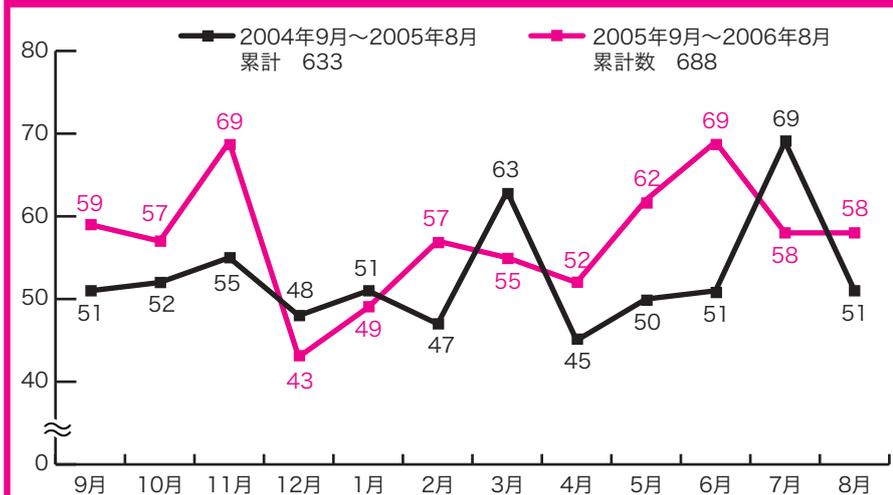
この全国大会は、さい帯血バンクとさい帯血移植に興味をお持ちの方ならどなたでも参加(無料)できます。参加者からの質疑応答の時間も用意しています。

紀子さま提供

詳細記事は2面に

非血縁間さい帯血移植状況(2006年8月31日現在の速報値)

移植数(累計) **3218** 公開数 **25322**



2006年福岡発 さい帯血バンク推進全国大会

日時：2006年10月22日(日)
13:30～16:30
(報告会・シンポジウム)

会場：福岡ガーデンパレス
(福岡市中央区天神4-8-15)



紀子さまご出産おめでとう、そしてありがとう 新宮さま、さい帯血ドナーに ご夫妻「国民の役に立つなら」と

秋篠宮妃殿下紀子さまは、9月6日に男児をご出産になりましたが、その際にさい帯血を提供されました。紀子さまのご出産は部分前置胎盤ということで、帝王切開で行われましたが、出産直後にさい帯血を採取したもので、新宮さまはさい帯血のドナーになられました。

出産は愛育病院で行われましたが、愛育病院は東京都赤十字血液センター臍帯血バンク（日赤東京さい帯血バ

ンク）の採取協力病院になっています。また、紀子さまの主治医である中林正雄院長は日本さい帯血バンクネットワークの副会長でもあります。中林院長は定期検診の際に、秋篠宮ご夫妻にさい帯血の提供についてご説明をしたところ「国民の役に立つことであれば」とさい帯血の提供を申し出られました。無事に出産も終わり、ご夫妻の意思に添うようにと、さい帯血の採取が行われました。

採取されたさい帯血は、同意書や問診票・出産記録などの文書類とともに、東京・辰巳の日赤東京さい帯血バンクに送られ、すぐに細胞の分離・調製が行われて仮保存となりました。

中林院長の話 感染症防止のための海外滞在記録のことが気になりましたが、紀子さまはご自分でパスポートのチェックなどもされました。その結果、指定期間内のイギリス渡航歴などもなく、さい帯血の提供ができました。

『骨髄バンク・さい帯血バンクの今そして明日』 大会前日に公開シンポ

臨床血液学会と
血液学会の共催

福岡でのさい帯血バンク推進全国大会が開催される前日、同じ福岡の地で10月21日（土）午後2時から日本血液学会と日本臨床血液学会の市民公開シンポジウム『骨髄バンク・さい帯血バンクの今そして明日』が福岡市の西鉄ホールで予定されています。

これは、今年の日本血液学会総会と日本臨床血液学会総会が福岡市で合同開催（10月6～8日）されるのを機に開催されるものです。

この公開シンポジウムでは、九州がんセンターの岡村純臨床研究部長が「日本骨髄バンクの現況と非血縁ドナー骨髄移植の成績」と題して、骨髄バンクに関する基調講演が、そして日本さい帯血バンクネットワークの谷口修一事業運営委員（虎の門病院血液科部長）から「日本さい帯血バンクネットワークの現況とさい帯血移植の成績」としてさい帯血バンクを介したわが国におけるさい帯血移植の基調講演

があります。

さらに、特別講演があるほか、パネルディスカッションには移植医、骨髄バンク関係では地区事務局やボランティアとコーディネーター、さい帯血バンク関係ではさい帯血バンクスタッフや採取医などが参加して議論を交わすことになっています。

お時間が許す限り、さい帯血バンク推進全国大会前日のこの公開シンポジウムにもご参加ください。



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



移植を受けた患者さんの手記

あの日から 2年が経過

東京都 田村 英恵さん (33歳)



移植後1年目からあちこちに出かけている田村さんは、東京デイズニールランドで元氣いっぱい!! 2005年10月

少量のさい帯血でもこんなに元氣

2003年9月26日のことでした。1週間前からなかなか熱が下がらず近所の病院で血液検査をしたところ、通常よりも高い数値が出て、主治医から告知を受けました。その日から私の「急性骨髄性白血病」の人生が始まりました。祖母の病気介護をされていて祖母が亡くなった後、求職中に発病したのです。

死の恐怖や不安も

私の急性骨髄性白血病のタイプ(M4)は移植しなくても治しやすいタイプと聞き、私は移植しなくても大丈夫なんだと思っていたところに、主治医から思いがけない説明を受けました。「染色体異常(9番と6番の転座)があり、この異常に関しては骨髄移植しか手段がなく、化学療法のみだと再発しやすい。再発してからの移植に関しては期待できない」

骨髄移植のドナー探しが始まったのですが、心の中では「すぐ見つかる」と思っていました。

しかし、ドナー探しは難航しました。血縁にも適合者はおらず、骨髄バンクでは10人いたものの、3カ月近く待っても該当者が現れません。

ドナーを待たされているあいだ、本当に自分の危機を感じ、時には死についての恐怖や不安が大きく募り、同部屋の人が移植して順調に退院していくのを見て嫉妬してしまい、「何で自分には決まらないの?」という思いでいっぱいでした。

その後、主治医から「あなたの場合

は長期的に骨髄バンクを待てるタイプではないので、さい帯血バンクで検索したところ4座一致で細胞数も多いのがあったのでさい帯血の移植に踏み切りましょう」ということになったのです。

告知されてから半年後にその話があり、4月9日に移植する予定まで決まりました。ところが、1週間前から頭痛がひどくなり、延期したほうが結果的にもいいという判断で、16日に移植にこぎ着けたのです。

1分足らずで終了

2004年4月16日の金曜日、5年前に生まれた女の子のさい帯血で移植をしました。

さい帯血での移植に関しては、5時間ぐらいかかる骨髄からの移植よりも時間が短く、ある人は5分で終わったという話を聞いていました。血液型は私(A)と赤ちゃん(O)が異なり、実際に使用する量も少なかったので、移植に関しては1分足らずで終了しました。

生着も順調に進み、移植2カ月後に退院しました。その後ヘルペスでの再入院や皮膚の慢性的なGVHDに悩まされたり風邪を引いたり、すぐには治りにくいということが多く、その症状が出るたびに落ち込んでしまったときもありました。

社会復帰はまだしていませんが、それに向けてできることとして、現在は多くの資格取得に向けて頑張っています。

7月にはビジネスマナーの3級を取得しました。今度はパソコンや簿記の資格を取ろうと考えています。

また、発病前からお出かけ好きということもあるので、平日が中心ですが体調を見ながら外出したり友人と会ったり、趣味などをして過ごしています。

今後は小旅行にもチャレンジしてみたいです。また、退院してから日常生活に関する不安を患者会のHPに書き込みしたのがきっかけで「もっと患者仲間と話をしてみたい」ということで患者交流会にも足を運んでいます。

完治に向け頑張る

さい帯血移植に関しては、まだ疑問を抱いている人も多く、私も移植をしたあと患者仲間から「本当にこれでよくなるの?」と聞かれました。患者仲間から見れば「元氣」に見える私ですが、人からよく明るいといわれていますが、将来的な不安も大きく時には落ち込んでしまうこともあります。それに移植後の後遺症としての不妊に関しても不安は大きいですが、その代わり? ということで一人の赤ちゃんが私を救ってくれたのだということ、生きているなかで感じることも大きく自分の分身だと思っています。

丸5年の完治まであと3年ありますが、いつか私は移植で悩んでいる人や患者仲間「少量のさい帯血移植だったけど、今ではこんなに元氣だよ」と胸を張って言える人になりたいと思っています。



さい帯血バンク 道具箱

④ 凍結保存バッグの巻

絆を守る小さな守護神

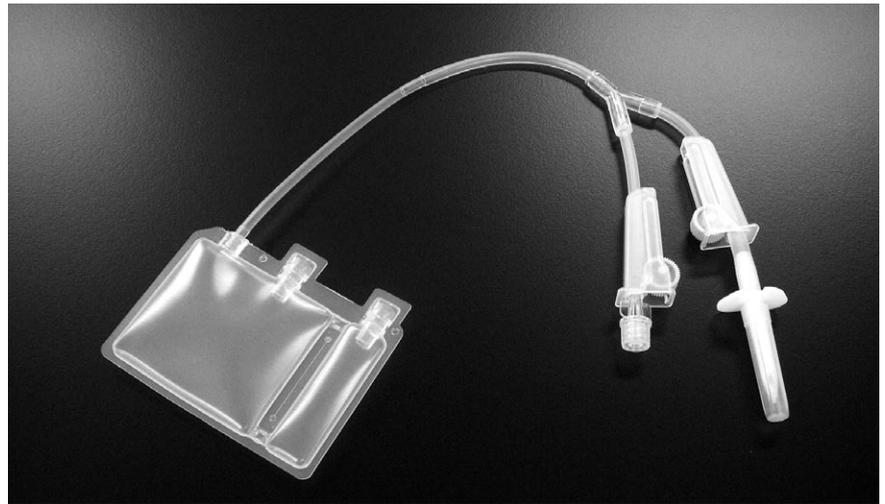
採取施設からバンクに搬送されたさい帯血中に含まれる造血幹細胞を、移植されるまでの一定期間生きて状態で維持するためには、液体窒素の中で凍結保存することが最も効果的であるとされています。

大室と小室で構成

液体窒素の温度は、マイナス196℃であり、このような超低温でも壊れない素材でできている「凍結保存バッグ」を用いる必要があります。凍結保存バッグは種々のメーカーで製造されていますが、今回はさい帯血専用として開発された「フローズバッグ：F-025」を紹介します。素材は超低温耐久性に優れた超高分子量ポリエチレン(UHPE)で、87×72×8mmの立体形をしており、大室と小室の二つの部屋に分かれています。容量はバッグ全体で25mlあり、大室が20ml、小室が5mlとなっています。厚みを増した立体型にすることで小型化され、収納スペースの効率化が図られました。

将来性ある優れ物

大室と小室に分かれているのには理由があります。それは、さい帯血の一部に対し特別な処理を施すことを可能にするために配慮された構造なのです。例えば「さい帯血中の造血幹細胞を体外で増やす方法」という研究においては小室のさい帯血が活用されます。大室中のさい帯血とともに、体外で増やした造血幹細胞を移植することで、生着の確率を高め、また生着を促進することにより感染症などの移植関連合併症を少なくすることが期待されています。この凍結保存バッグは、将来性を見込んだ「なかなかの優れ物」と言え



ニプロ製の「フローズバッグ：F-025」

ます。

金属ケースに保管

調製保存施設で分離・調製が行われ、最終的に凍結可能となったさい帯血は凍結保存バッグの大室側についているチューブから注入されます。このとき注射器を使う方法と、調製を行った分離用バッグに直接接続して移し替える方法の両方できるようになっています。

注入後は、「チューブシーラー」という機械で閉鎖し、その遠位側を切り離します。また、大室と小室の間は繋がっているため、「チャンネルシーラー」という機械でシールします。マイナス196℃の超低温下で保存可能な凍結保存バッグでも、液体窒素の中での大きな衝撃により壊れてしまう恐れがあります。このため「キャニスター」と呼ばれる金属製のケースに入れてから液体窒素タンク内で大切に保管します。

注射器で取り出し

移植施設から提供依頼があったさい帯血は、ドライシッパーを用いてキャニスターごと搬送されます。移植施設

において一定期間保管され、37℃恒温槽で解凍後、患者さんに移植されます。凍結保存バッグから解凍したさい帯血を取り出す時は、大室と小室についている瓶の首のような突起（ポート）を使います。清潔なハサミでカバーを切り離した後、「インジェクションプラグ」というアダプターをポートに差し込み、ここからさい帯血を注射器に取り出します。

このように「フローズバッグ：F-025」はわずか25mlの容量ですが、提供者の善意と患者さんの希望を繋ぐ「いのちの絆」を守るにふさわしい、「小さな守護神」と言えるでしょう。

■ 善意のお気持ちに感謝します ■

1万円 東京都・種橋信哉様
200万円 千葉県・篠塚裕康様
100万円 日本小児血液学会

善意をお待ちしています

〈寄付受け付け専用口座〉

郵便振替口座番号：00180-9-57390
口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク